

徳島県赤松・出原マンガン鉱床調査報告 (稻井信雄)

り、また辰砂も附着している。

4. 探 鉱 計 画

当鉱床はその露頭が以上のように狭い範囲で複雑な形態を示している。これは断層や地層の褶曲にともなつて鉱床が複雑な構造をしていると考えられるから、その実態を知るためには地表の探査のみではこれを知ることができないので、坑道掘によつて探鉱計画をたてるべきだと思ふ。現地形からみて、余り下部からの探鉱は鉱床の褶曲のため逃すかも知れないので、とりあえず三号坑から約 5m 下部において、北に向つて立入坑道を開鑿するのが適当であろう。この立入は作図によれば、10~15m で鉱床に逢着するものと考えられるので、着脈後は錘押坑道で東西の方向に掘進し、鉱床の実態を把握すべきものとする (第 3 図参照)。

5. 埋 蔵 量 (印刷省略)

6. 稼 行 現 況

現地には事務員を含めて千名で稼行している。軽便索道見張小屋以外はみるべき設備もなく、主として二号坑を採掘して次の実績を示している。

鉱産額	昭和 24 年	45%	85t
	" 25 年	50%	22t
		45%	91t
	" 26年10月迄	50%	44.5t
		50%	50 t

これ以外に蟬谷鉱区がある。これは巾 3m 延 10m におよぶレンズ状鉱体で既に地表に近いものは掘りつくされている。

地並以下約 5m から立入探鉱が開鑿されているが、鉱床下部に逢着せずして中止している。この鉱区の鉱床附近の露頭はまだ探鉱されていない。当鉱床地区は部落から 4km 近く離れており、かつこの間の道路も林道であるから、採掘された鉱石はまだそのまま放棄されている。

7. 意 見

当鉱山は那賀川の上流にあり、珪岩中に胚胎する炭酸マンガン鉱床である。鉱体は複雑な形態をしているが、品位は Mn 40% であるから下部開鑿とともに鉱床の実態を把握すれば、鉱量もさらに倍加するものとする。

(昭和 27 年 1 月~3 月調査)

553.94:550.8 (522.2)

長 崎 県 北 松 浦 郡 平 戸 島 附 近 の 地 質

長 浜 春 夫*

Résumé

Geology of Hiradoshima and its Vicinity
Kitamatsuura-gun, Nagasaki Prefecture

by
Haruo Nagahama

- (1) The thickness of Nozima formation amounts to 1,500m+.
- (2) Minamitabira formation is overlain uncoformably by Hirado formation (Neogene? newly named by the author) which covers Hiradoshima, Iketsukishima and Tabira Village extensively.
- (3) Coal seams are too deep to be worked in Hiradoshima, even if they are present.
- (4) The most hopeful coal field composed of Palaeogene sediments is expected under the basaltic flow between Emukae and Mikuriya-machi near Hiradoshima.

昭和 25 年 4 月野島累層の上部の状況を知るために、北松浦郡江迎町・南田平村(岡田技官同行)・生月島・大島および平戸島の 1 部を約 8 日間調査する機会を得たので、その結果を報告する。

なおこの地区については資料として 20 万分の 1 平戸図幅があるのみである。

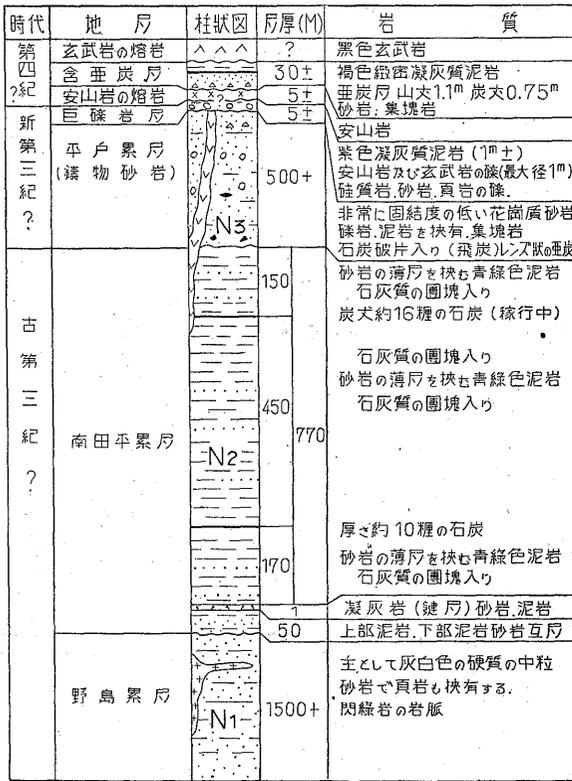
各地とも玄武岩が広範囲にわたつて第三系を被覆しているため、各地に露出する水成岩相互の關係は不明瞭であつたが、調査の結果第 1 図のような地質模式柱状図が考えられる。

野島累層は恐らく 1,500m 以上の老大な層厚を有するものと思われるが、南田平村原の海岸で頁岩を挟む砂岩層(野島累層)とその上位の泥岩砂岩層(南田平累層)との間に不整合が観察されるので、この頁岩を挟む砂岩層までを野島累層と考えたい。

南田平累層と平戸累層(鈔物砂岩)との不整合關係はだいたい、大塔・生月向においても露出不良のため観察されない。

南田平累層は平戸累層の堆積環境と異なり佐世保層群の一連のものと考えられるので、佐世保層群の最上部層としたい。

* 燃料部



第1図 平戸町地区模式地質柱状図

南田平累層中には顕著な石炭はないが、南田平村大塔において厚さ約16cmの炭層(田平炭)を小規模に稼行している。

平戸累層 (本累層中の砂岩は従来鑄物工業に盛んに使用されたため、この花崗質砂岩を一般に鑄物砂と称している)は南田平村^{あおさき いけむけ}青砂崎・生向・田平港・平戸口・白浜・中野村水垂^{みずたり}および生月島東岸に広く分布している。本累層の岩相、走向・傾斜ならびに本層の下に横たわる佐世保層群から由来したと思われる石灰質を含有すること等から推察して、恐らく本層は南田平累層を不整合に被い、さらに新しい地層であると思われる。本層の分布はおおむね盆状構造をなしている。本層の分布する坊方・水垂および生月島等には亜炭がレンズ状に露出しているが、野島層上部の石炭より炭化度低く田助の亜炭より高い。亜炭は炭量が少なく、炭質も粗悪なために稼行価値はない。

野島層は一般走向約 N50°E、傾斜約 30°~40°Wの簡単な単斜構造で、その間に大きな断層は見当らない。

東側落ち(あるいは西側上りの逆断層かもしれない)の推定断層が平戸島と南田平村との間の海中を走るものと推定され、その落差は数100mにおよぶ大断層ではないかと考えられる。

田助の亜炭層* は安山岩の上位にかつ玄武岩の下位に介在している。

下寺の含珪藻泥岩下にあつたといわれる亜炭層は玄武岩を不整合に被っているので、田助の亜炭層よりさらに新しいものであると考えられる。また田助の亜炭層は白浜における巨礫岩層(第四紀の疑もある)と同時代のものであるとも考えられるので、平戸累層の性質と安山岩および玄武岩等を究明することにより、層序をさらに検討すべきであると考えられる。

野島層の上部南田平累層および平戸累層の地層からは、未だ1個の動物化石も発見されない(植物化石は発見される)その時代は明瞭でない。ただ下寺の玄武岩の上位にある泥岩中より、下記の淡水性の珪藻が発見されたに過ぎない。

Melossira sp.

Coscinodiscus sp.

Pinnularia sp. ?

広範囲にわたつて水成岩を被覆する火山岩は橄欖石玄武岩で、その他大島港附近、中野村および田助に変質した複輝石安山岩、坊方北西方に石英安山岩が見られる。

火山岩の岩床は岩脈に比して少ない。玄武岩の小岩脈は各所でみられ、特に南田平海岸、平戸島千里ヶ浜には非常に多く現出している。南田平村蛭子崎・原の海岸には変巧安山岩の小岩脈がみられ、また閃緑岩の岩脈もみられる。これら相互の関係は明らかでない。

平戸島川内大久保小学校前に露出している砂岩泥岩互層は、野島層中部の岩相に酷似しているが、これを野島層と断定するにはさらに地質構造と野島層の堆積環境を究明すべきである。

次に石炭・飛炭の分析結果を表示すれば別表の通りである。この分析表から判断すると、田平炭は現在稼行している佐世保炭田の各炭層に比べると炭化度が低く、全硫黄量が著しく多い。

飛炭とは鑄物砂岩中にとりこまれた石炭の破片であつてあまり円磨されていない。その由来は不明であるが炭質から推定して、恐らく野島層以上の層群のものであろう。揮発分が多く炭化度は田平炭よりもさらに低い。

平戸島地区においては大きな構造線により鹿町・岳下および矢岳、その他において知られている炭層が、比較的地下浅処にもたらせていない限り、稼行可能な炭層を期待することは困難であると考えられる。今後本地域を精

* 20万分の1 壹枚図幅(大築洋之助)の第三紀新層に対比されるものと思ふ。

査して、これらの諸問題を解明することが望ましい。

この附近でさしあたり開発すべき処女地は江迎町より御厨町に至る玄武岩下の炭層発達地である。その理由はこれらの地帯に含有孔虫(Cyclammina)頁岩が分布することが判明したからである(三枚炭は含有孔虫頁岩下30

m前後にある)。それ故この地区においては地下浅所に三枚物が存在することが推定されるから、特に炭層の発達の場合・構造等をさらに精査するとともに、玄武岩上より試錐を試み、三枚物までの深度と炭層の状況を早急に知る必要がある。(昭和25年4月調査)

550.831 (521.28)

神奈川地区重力探鉱調査報告

松田 武雄*

Résumé

Gravity Survey at Kanagawa District

by

Takeo Matsuda

This is a report of gravity survey at Kanagawa district, southwest region of Kanto Plain.

From the isogal map, a gravity minimum extending over a considerable area was found, the center of which is about at 9km, S-W of Mizonokuchi, Kawasaki-shi, Kanagawa² Pref. From the gravity distribution the underground structure was discussed.

要 旨

関東地方全般にわたる重力計による探鉱調査の一環として神奈川県下において重力探査を行った。

この結果本地域の重力分布を明らかにした。そして川崎市溝の口南西方 9 km 附近を中心とする低重力域を見出した。これより本地域の地下構造は低重力域を中心とした大きな盆状構造と考えられる。

1. 緒 言

本調査は昭和27年3月1日から同14日に至る14日間にわたり関東地方全般にわたる動力計による探鉱調査の一環として行ったもので、主として神奈川県の相模川以東の地区のうち三浦半島を除いた地区を調査した。

本調査には筆者の外に重力探査を通商産業技官小尾中丸・同川島威が、器械の運搬を雇員松本信一がそれぞれ担当した。

2. 位置および交通

本地域は関東平野の南西隅にあたり、北は多摩川、東は東京湾、南は相模灘、西は相模川をそれぞれ境とするほぼ矩形の地域で、面積は約110km²である。

本地域には国鉄東海道本線をはじめ、国鉄および私鉄が四通八達し、道路網もまたよく発達している。

3. 地形および地質

各河川の流域を除く調査地域の大部分は洪積層の海拔高距 20m ~ 150m の低い台地であつて、これらの台地の周縁および南東隅の鎌倉市の周辺には第三紀層が露出している。

また調査地域の西方には相模川をへだてて御坂層からなる丹沢山塊、第三紀層からなる大山等高度 1,000m ~ 1,500m の山地がさまつている。

河川の主なもの東京湾に注ぐ多摩川・鶴見川、相模灘に注ぐ境川・相模川等でその流域には沖積層が発達している。

4. 重力探査

a. 探査目的

本調査の目的は関東地方一帯の重力分布の概要を明らかにして地質構造の把握に必要な資料をうるにある。

b. 探査方法

ノース・アメリカン会社製の重力計 AG-1.-108 による重力の比較測定を行った。測点は主として水準点・独立標高点・鉄道線等地形図その他から標高を求めうる地点に選定した。

c. 探査結果

測点数は合計118点であつて、昭和26年1月乃至3月に、帝国石油株式会社物探課で行つた、東京都下の重力探鉱調査の際の測点のうち4点を重複して測定し、そのうちの1点である測点番号117(東京都北多摩郡府中町)における観測値 -2.5mgal を基準とした各測点における観測値から、器械の Drift・天体からの影響を除去した測定値、および高度・緯度・地形の各補正值ならびにそれによつて得られた全補正值を第1表測定結果として示してある。また第1図神奈川地区等重力線図に測点の位置および番号ならびに全補正值から得られた重力分布を 5mgal 等の等重力線で示してある。

* 物理探査部